

■第6回シビック名画座 上映スケジュール

1日目 12月12日(金)

13:30~15:20 「おかしな奴」

15:40~17:10 「あゝ軍歌」

※両日とも、1作目終了後に約20分の休憩時間があります。

2日目 12月13日(土)

13:30~15:20 「幕末太陽傳」

15:40~17:30 「おかしな奴」

プログラム作品紹介より引用

『おかしな奴』(1963年 白黒 110分)

【スタッフ】

脚本 鈴木尚之

監督 沢島忠

【出演者】

渥美清 三田佳子

南田洋子 加藤嘉 ほか

自ら「珍顔」を名乗り、戦後の落語界で爆発的な人気を誇った風変わりな落語家、三遊亭歌笑(1917~50)の短い人生を描いた東映作品。歌笑を演じた渥美清にとって、この映画は『拝啓天皇陛下様』や『ブナ・トシの歌』と並んで「寅さん」以前の代表作と言えるだろう。監督の沢島忠は東映の中でも新しい世代に属し、フットワークの軽い演出で知られる。実在の歌笑はナンセンスな笑いを得意としたことで知られたが、沢島監督はあえてこの落語家の生涯を、滑稽な笑いばかりでなく、夫婦愛を軸にそこはかない哀しみを込めて描いている。やがて名作『飢餓海峡』(1965、内田吐夢監督)を執筆することになる脚本家鈴木尚之や、数々の黒澤明作品に音楽を提供した作曲家佐藤勝など、スタッフ陣の豪華さでも注目に値するだろう。

『あゝ軍歌』(1970年 カラー 89分)

【スタッフ】

原作 早坂暁

脚本 満友敬司

脚本・監督 前田陽一

【出演者】

フランキー堺 財津一郎

倍賞千恵子 北林谷栄 ほか

戦争中、精神障害の真似をしてわざと野戦病院に入り、死を逃れた二人の男は、その後、戦没者をまつる神社へ遺族を案内する怪しげな観光ガイドとして暮らしていた。その男たちのもとへお婆さん、未亡人、少女、ヒッピー風の男が次々と迷い込んでくる奇妙な生活を描いたこの作品は、1960年代以降の松竹喜劇を支えた前田陽一監督の代表作である。その作風について、主演のフランキー堺は、「旅行」シリーズの瀬川昌治監督の「軽喜劇」に対する、前田作品の「重喜劇性」と説明して敬意を表した。劇中の所々に軍歌が挿入されて作品のリズムを築いているが、この映画で「歌」が作品の血肉となっているように、前田監督は歌謡映画にも定評があり、『進め！ジャガーズ 敵前上陸』(1968)などのヒット作を送り出した。

『幕末太陽傳』(1957年 白黒 110分)

【スタッフ】

脚本 田中啓一

今村昌平

脚本・監督 川島雄三

【出演】

フランキー堺 左幸子

南田洋子 石原裕次郎 ほか

金もないのに品川遊廓でお大尽遊び、やむなく居残りとなったが遊廓の人気者として要領よく生きてゆく男の姿を描いた時代劇コメディ。その物語の核となったのは古典落語ネタである。監督の川島雄三は、演出家としての幅は広く、男女関係のもつれをめぐるメロドラマなどにも秀作を送り出した才人である。フランキー堺扮する居残り佐平次は、軽妙な味を見せながらも実は胸を病んでいるという設定であり、その姿には川島監督が一貫して作品に投影してきた底深い虚無を垣間見ることができる。また共演者として、日活のトップ・スターになる前の、時代劇初出演の石原裕次郎が、佐平次と同宿して一騒動を起こす勤皇の志士高杉晋作を若々しく演じている。「キネマ旬報」ベストテン第4位。



文京シビックホール小ホール アクセスマップ

〒112-0003 東京都文京区春日 1-16-21 文京シビックセンター2F

●交通アクセス

- ・東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園」駅【直結】
- ・都営地下鉄三田線・大江戸線「春日」駅【直結】
- ・B-ぐる (文京区コミュニティバス) 停留所1番「文京シビックセンター (春日駅前)」

<https://www.b-academy.jp/access/>



■お問合せ 公益財団法人文京アカデミー
アカデミー文京 学習推進係
03-5803-1119 (平日9時~17時)